

社会対話「環境カフェ」の実践  
 —「環境カフェ五月祭」のオンライン開催を例に—  
 Practice of social dialogue “Kankyo Café”  
 As an example of holding “Kankyo Café Gogatsusai”

多田 満\*, 謝 承諭\*\*, 鈴嶋 克太\*\*\*

TADA Mitsuru\*, XIE Chengyu\*\*, SUZUSHIMA Katsuhiko\*\*\*

\*国立環境研究所, \*\*東京大学, \*\*\*環境カフェ運営・企画

[要約]「環境カフェ五月祭」の開催に向けて、「環境カフェ本郷」(3回)をオンラインで開催し、その開催の手順やトピックを事前に検討した。「環境カフェ五月祭」での参加者の「回答」は、「コロナ禍と環境問題」のテーマでは、「環境カフェ本郷」と同様に参加者すべてのキーワードにベン図の区分の「社会」が関連していた。「海洋プラスチック」では、どちらもほとんどすべてのキーワードで、すべての区分(「環境」「社会」「経済」)に関連していた。『「環境」とSDGsのかかわり』では、すべてのキーワードに「環境」が関連しており、SDGsの三側面のうちで「環境」の重要性が改めて理解された。開催後のアンケートでは、「環境問題の定義について、自分の視点よりも広い視点から示された」、「自分の身の周りの事を想像しながら考えることで共感することができた」、「バイオプラについて議論できたことがとても学び深かった」、「直接研究者の方と意見交換できてよかった」などの回答があった。

[キーワード] SDGs, オンライン, 海洋プラスチック, 環境カフェ, 環境問題

## 1. はじめに

「環境カフェ」は、環境・社会課題に関連するテーマについて、参加者(高校生や学生, 社会人)の対話により専門家と市民の理解を深め、共感を促す(共感の場をつくる)ことを目的とする社会対話である(国立環境研究所 2020, 多田 2018a, b, 多田 2019, 多田・田中 2020, 多田・戸祭 2018)。「環境カフェ東京」(日比谷公園など)や「環境カフェ本郷」(東京大学)など東京をはじめつくばや福岡などの国内各地や国立環境研究所の一般公開(春の環境講座)での開催、さらには学生らによるイギリスやアメリカ, ロシアなど海外の大学などにおける Kankyo Café の開催に取り組んできた(国立環境研究所 2020)。開催時のテーマは、自然共生や生物多様性, SDGs(多田・田中 2020), あるいは『沈黙の春』などの文学からの言説なども取り上げて、環境問題を考える「共感の場」(国立環境研究所 2020,

多田 2018a, 多田・戸祭 2018)になっている。

2020年のコロナ禍において、環境カフェの対面による開催(対面方式)から Web 会議システム(Zoom)を用いたオンライン開催(オンライン方式)の手順を考案し、「コロナ禍の環境を考える」をテーマに「第1回環境カフェオンライン」の実践, ならびに九大環境コミュニケーションサークル(代表, 田中)の「九大環境カフェ」で実践したオンライン開催について報告した(多田・田中 2021)。さらに2021年度からは、全国規模の組織であるクライメート・ユース・ジャパン(CYJ)の勉強会で、学生主導による「CYJ 環境カフェ」として、月2回開催した(オンライン方式)。2021年の東京大学の第94回五月祭では「環境カフェ五月祭」(企画責任者, 謝承諭)として、また、五月祭での開催に先立ち、「環境カフェ本郷」(3回)を開催した(オンライン方式)。

そこで本報告では、「環境問題を身近に自分

ごとと捉えること」を目的にオンライン開催した「環境カフェ本郷」,ならびに学生主導の「環境カフェ五月祭」で実践したオンライン開催の方法とその概要,ならびにアンケート結果について報告する。

## 2. オンライン方式「環境カフェ本郷」の実践

「環境カフェ本郷」は,おもに大学生と高校生を対象に2016年より2018年まで本郷キャンパス内赤門総合研究棟のラウンジにおいて対面で11回,ならびに2020年6月にオンライン方式で1回開催した。そして,「環境カフェ五月祭」の開催に向けて,「環境カフェ本郷」(第13回から15回まで3回)をオンラインで開催し,その開催の手順やトピックを事前に検討した。オンライン方式の「環境カフェ本郷」の開催方法は,多田・田中(2021)により下記の通りである。

開催時間と参加人数は,全体で60分程度,4~8名の大学生や社会人の参加により「話題提供」→「問いかけ」→「回答」→(類型化)→「対話」の手順で開催した。開催時には,参加者全員が対等な立場で対話を通じて共に「学ぶ」「考える」きっかけを作るために,トピックに関する「問いかけ」についての参加者各自の回答(キーワード)とそれがベン図(図1,2,4)のどの区分(アルファベット)に当てはまるかをチャットで発言した(類型化)。

さらに,類型化された各人のキーワードに関する自らの経験(感じたこと,知ったこと,考えたこと)を公平に聞きあうこと(対話)で,テーマに関する共通の理解と共感につなげた。各人のキーワードを類型化することで新たな対話のきっかけが生まれ,参加者が経験を尋ねあうことで,新たな「気づき」とそれによる「経験の向上」につながることを目標にしている(国立環境研究所2020,多田2018a)。毎回の終了後には,環境カフェ

Facebookに開催報告を掲載した。なお,各回のはじめに「環境カフェについて」,ならびに上記のオンライン方式について説明した。

「第13回環境カフェ本郷」(多田担当,院生と社会人,7名参加)は,2021年4月25日(日)午前10時~11時,『環境』とSDGsのかかわり」をテーマに開催した。まず,SDGsについて解説し,その後に各人の「興味・関心のある環境・社会問題」についてのキーワードを挙げてもらい,それぞれのキーワードに関連するゴールを選択して話し合った(表1)。さらにSDGsの三側面のつながりを表したウェディングケーキモデル図(Johan Rockström)より,各人のキーワードを「環境B(生物圏)」(ゴール6,13,14,15)と「社会S」(1,2,3,4,5,7,11,16)と「経済E」(8,9,10,12)の関わりをベン図(図1)の区分(Aはすべて)に当てはめて,これら3側面との関係性について理解を深めた。各人のキーワードのほとんどが,3側面すべてに関連性があった(表1)。

「第14回環境カフェ本郷」(謝担当,院生と社会人,5名参加)は,2021年5月1日(土)午後2時~3時,「海洋プラスチック」をテーマに開催した。はじめに「世界のプラスチック生産量と推移,その使用用途内訳」を示し,「マイクロプラスチックによる海洋汚染の問題」について,さらに動画「マイクロプラスチックの旅」(東京大学・日本財団FSI海洋ゴミ対策プロジェクト)について紹介した。なお,発表は英語でスライドは日本語表記でおこなった。その後に参加者の「海洋問題で興味・関心のあること(キーワード)」を「環境Biosphere(生物圏)」「社会S」「経済E」のかかわりのベン図(図2)に当てはめて,挙げられたキーワードとこれら3側面との関係性について話し合った。各人のキーワードは,第13回と同様にそのほとんどで3側面すべてに関連性があり,またすべてに「環境B」が含まれていた(表2)。

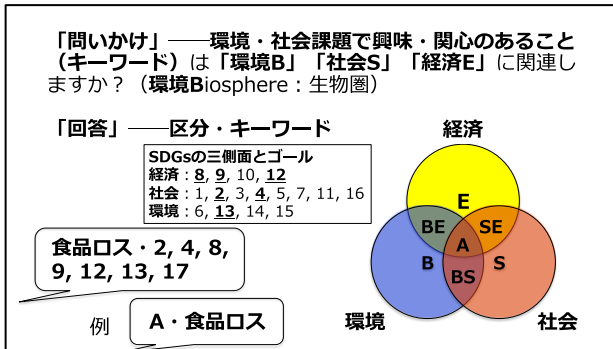


図1.「第13回環境カフェ本郷」の「問いかけ」と「回答」, ベン図

表1.「第13回環境カフェ本郷」で参加者が挙げた「回答」(キーワードと関連するゴールの番号・ベン図の区分)

キーワード・関連するゴールの番号・区分
持続可能で健康的な食生活・生産・1, 2, 3, 12, 13, 15・A, 水・下水処理2, 4, 6, 11, 14, 15・BS, プラスチックごみ問題・9, 12, 13, 14, 15, 17・BE, 食品ロス問題・1, 2, 3, 9, 10・SE, 漁業・1, 2, 8, 9, 12, 13, 14, 15, 16, 17・A, 香害・3, 4, 8, 9, 10, 11, 12, 14, 15・A, 核廃水・3, 9, 11, 12, 14, 15, 16, 17・A, 廃プラスチック・9, 12, 13, 14, 17・BE, 動物由来感染症・3, 10, 12, 13, 14, 15, 17・A

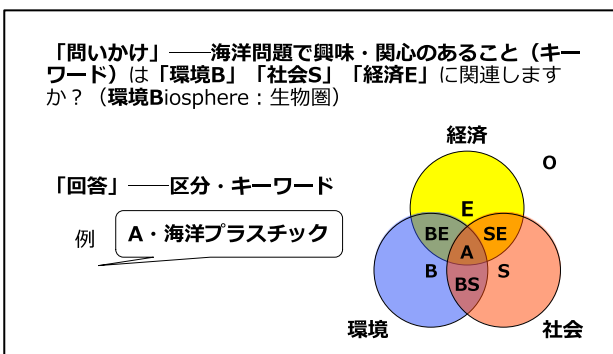


図2.「第14回環境カフェ本郷」の「問いかけ」と「回答」, ベン図

「第15回環境カフェ本郷」(鈴嶋担当, 院生と社会人, 6名参加)は, 2021年5月9

表2.「第14回環境カフェ本郷」と「第15回環境カフェ本郷」で参加者が挙げた「回答」(ベン図の区分・キーワード)

回	区分・キーワード
14 (謝担当)	A・日本人が食べる魚介類, BE・プラスチックごみ, A・海洋プラスチック, A・マイクロプラスチック, BS・健康影響, A・コロナ, A・漁獲高の減少, A・マイクロプラスチック
15 (鈴嶋担当)	S・モラル, SC・国民性, NS・プラスチックごみ, NS・環境改善, SC・人びとの密集・移動, S・医療体制, S・マスク

日(日)午前10時~11時,「コロナ禍と環境問題」をテーマに開催した。はじめに「人と環境とのかかわり」の模式図(図3)が示され,『ワンヘルス』(福岡県議会2021)という視点について,さらに「現代,動物由来感染症のリスクが大きく高まっている」ことについて「地球温暖化と森林破壊」,「野生動物食」,「ペット取引」,「肉食」,「生物多様性の減少」の観点から解説した。まとめの「コロナ禍と環境問題~最後に~」では,「新型コロナウイルス・パンデミックの責めを負うべき生物種がただ一つだけある。それは我々だ」(2020年のIPBES報告書にかかわった博士の言葉)や『パンデミックを招く消費スタイル』(IPBES報告書)は日本人の生活と無縁ではない(著・井田徹治『次なるパンデミックを回避せよ』岩波書店)といった言説を紹介した。その後「新型コロナウイルスは,どういふ点で『環境問題』だと思いますか?」という問いかけについての各人の「回答」(キーワード)を,「自然N」「社会S」「文化C」のかかわりのベン図(図4)に当てはめて,これら3側面との関係性について話し合った。各人の

キーワードは、すべて「社会 S」に関連性があった (表 2)。

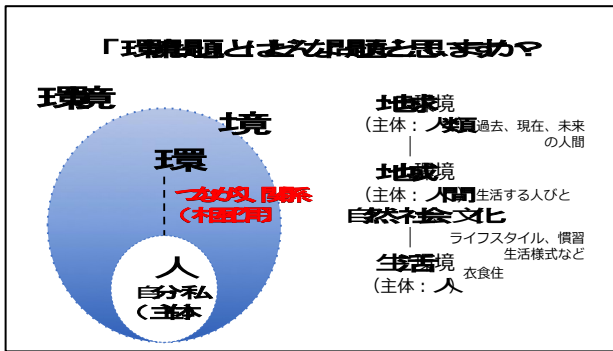


図 3. 「人と環境とのかかわり」の模式図

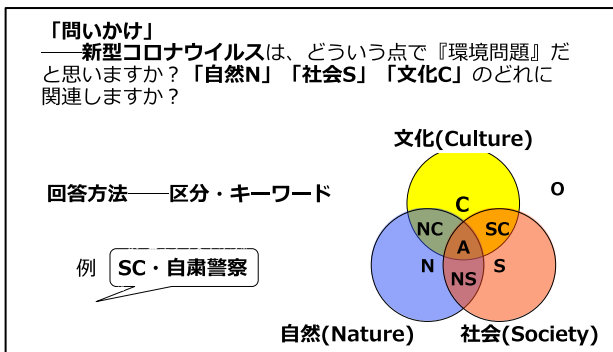


図 4. 「第15回環境カフェ本郷」の「問いかけ」と「回答」, ベン図

### 3. 「環境カフェ五月祭」の実践

新型コロナウイルス感染症の影響により開催期間が5月から9月に変更された第94回五月祭では、謝が代表を務める企画団体「UT 環境カフェ」による「環境カフェ五月祭」を開催した。その団体紹介文は、「UT 環境カフェは、環境問題に関わる専門家（院生や研究者など）を交えて、東京大学の学生（留学生や院生を含む）と学外の学生や高校生、社会人（卒業生など）との対話イベント、「環境カフェ本郷」（2016年～）を学内において開催しています。2020年からは、これまでの対面方式の手法をもとにオンライン方式（Zoom）により開催しています」とした。企画のタイトルは「身近な環境問題を話し合おう！」で、その説明は、開催の目的でもある『その環境

問題、あなたの生活にどう関わっているのでしょうか？』環境カフェは、この問いに皆さんが向き合い、対話し、他人事から自分事に捉え直す場所を提供します」とした。また、「UT 環境カフェ」を紹介したチラシを作成し、開催時に参加者にファイルで提供した。

第94回五月祭では、「コロナ禍と環境問題」（鈴嶋，19日午前10時～11時担当，4名参加）と「海洋プラスチック」（謝，19日，20日それぞれ午後1時30分～2時30分担当，それぞれ3名参加），『環境』とSDGsのかかわり」（多田，19日午後3時～4時担当，3名参加）の3つのテーマで開催し，中学生，高校生，社会人（会社員，農学者，医者）が参加した。毎回の終了時には，参加者に理解と共感に関するアンケート調査（Google フォームを使用）を行い，その後に「環境カフェ Facebook」に開催報告を掲載した（Facebook ページ「環境カフェ」）。なお，開催翌日に発表スライドとアンケート結果をそれぞれ参加者にメールで送付した。

それぞれの開催のはじめに「『環境問題』とはどんな問題だと思いますか？」の「問いかけ」をした後，図1を用いて，「主体とその周りの環境の相互の関係が，好ましい形からずれている時，そこには環境問題が存在しています。主体と環境が，相互に悪影響を与えているような状態。それが環境問題です」と解説した。続いて「環境カフェは環境・社会問題に関する対話イベント」であり，「参加者は，それぞれの経験（感じたこと，知っていること，考えたこと）を対等・公平に聞き合おう」「ともに『学ぶ』『考える』ことで，お互いの理解と共感（自分ごとと捉えること）を目指す」と説明し，その後は「環境カフェ本郷」と同様のオンライン方式の手順で「環境カフェ本郷」（第13回～15回）の際に使用したスライドを用いて対話を進めた。

参加者それぞれの「回答」（表3，4）を「環境カフェ本郷」のもの（表1，2）と比較する

と、「コロナ禍と環境問題」(鈴嶋担当)では、「環境カフェ本郷」と同様に、すべてのキーワードが「社会S」の区分と関係していた(表3)。「海洋プラスチック」(謝担当)では、「環境B」を含まない「SE・海面上昇」と「SE・リユース(脱使い捨て)」のキーワードがあった(表3)。どちらもほとんどのキーワードで、すべての区分(A)に関連していた。「『環境』とSDGsのかかわり」(多田担当)(表4)では、すべてに「環境B」が含まれており、SDGsの三側面のうちで「環境」の重要性が改めて理解された。

表3.「環境カフェ五月祭」の担当と参加者が挙げた「回答」(ベン図の区分・キーワード)

担当(日)	区分・キーワード
鈴嶋(19)	SC・休校, SC・孤独, A・自然破壊, NS・ワクチン, A・熱帯林破壊, S・休業要請, SC・医療崩壊
謝(19)	BE・海洋酸性化, BE・温暖化による海洋大循環?の停止, A・海洋プラスチック, SE・海面上昇, A・サンゴ礁の減少, A・藻場の減少, SE・リユース(脱使い捨て)
謝(20)	A・海洋プラスチックが動物に与える影響, A・サンゴ礁や藻場の減少, A・海面上昇, A・有害化学物質

表4.「環境カフェ五月祭」の多田担当の「回答」のキーワード・関連するゴール・区分

キーワード・関連するゴール番号・区分
温暖化・13, 15・B, Marine plastics・13, 14, 15, 17・B, 食品ロス・2, 4, 8, 9, 12, 13, 17・A

毎回の終了時のアンケートでは、「このイベントでは、対話を通してどのようなことについて理解(知ること)できましたか」の問いに対して、「環境問題の定義について、私の視点よりもさらに広い視点を見せていただけました。環境問題と都市の発展についても知ることができました」や「福岡県(福岡県議会 2021)の取り組みを知ったこと」(鈴嶋担当)、「プラスチックの年間の製造量がランドマークタワー1000個分の重さに値するというのは驚きでした」(謝担当)、「農業と社会経済の関りについての大まかな関係」(多田担当)などの回答があった。

また、「このイベントでは、対話を通してどのようなことについて共感(自分ごと化)できましたか」の問いには「お話を聞かせていただく中で、自分の身の周りの事を想像しながら考えることで共感をすることができました」と「ウイルスの蔓延も環境問題の範疇とも考えられると思っています」(鈴嶋担当)、「バイオプラについて議論できたことがとても学び深かったです。やはり、地産地消が重要だよなとしみじみと感じました」(謝担当)、「環境負荷の低減」(多田担当)などの回答があった。

さらに「このイベントについてコメントがございましたらご記入ください」については、「カフェというスタイルは良いと思います」と「直接研究者の方と意見交換でき、有意義でした。毎月開いてください。我々の力でより良い環境構築を行いましょ」(鈴嶋担当)との回答があった。

## 5. おわりに

謝は、2017年～2019年に筑波大学の留学生(Biological Sciences専攻)を対象に7回、ならびに2019年、イギリスのエディンバラ大学留学時、The future of our planet—

“Thinking about the environment”をテー



マにそれぞれ *Kankyo Café* (英語開催) を開催した。東京大学在学中の 2016 年より環境カフェに参加していた鈴嶋は、アメリカの Centre College 留学中に *Kankyo Café* を開催 (4 回) するとともに帰国後は、温暖化関連のテーマで日米同時オンライン開催 (2 回) をおこなった。多田は、2021 年 4 月から学生主導による学生 NGO クライメート・ユース・ジャパン (CYJ) の勉強会で、気候変動問題に関わるテーマなどを取り上げ「CYJ 環境カフェ」を月 2 回、定期開催 (2022 年 1 月までに 19 回) している。そのうち、2021 年 7 月 25 日に鈴嶋が「地球温暖化と環境のかかわり—Six Degrees Our Future on a Hotter Planet 他より」をテーマに担当した。

「環境カフェ本郷」の開催では、参加者がおもに大学生や院生に限定されている。一方、「環境カフェ五月祭」では、参加人数が 3~4 名と少人数ではあったものの、中・高校生や社会人との交流につながった。また、「第 94 回五月祭」の企画イベントには、環境問題を直接的に取り上げたものは、本イベント以外には見当たらなかった。気候変動をはじめとする地球規模の環境問題は、世界共通の課題として捉えられていることから、五月祭はじめ学園祭において環境問題を取り上げたイベントの開催が望まれる。

### 謝辞

この度の「環境カフェ五月祭」開催にあたりご支援いただいた関係者の皆さま、ならびに「環境カフェ本郷」、「環境カフェ五月祭」に参加してくださった中学生、高校生、学生、社会人すべての皆さまに感謝申し上げます。

### 参考文献

福岡県議会, 2021, ワンヘルス条例, [nehealth.html \(accessed 2022-1-29\).](http://www.gikai.pref.fukuoka.lg.jp/topics/o</a></p></div><div data-bbox=)

Johan Rockström, The SDGs wedding cake, <https://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2016-06-14-the-sdgs-wedding-cake.html> (accessed 2022-1-20).

環境カフェ Facebook, <https://www.facebook.com/KankyoCafe/> (accessed 2022-1-20).

国立環境研究所, 2020, 社会対話「環境カフェ」—科学者と市民の相互理解と共感を目指した新たな手法, 環境儀 (国立研究開発法人国立環境研究所), 76, 16pp.

多田満, 2018a, 社会対話の実践—「環境カフェ」を例に, 環境科学会誌, 31, 207-216.

多田満, 2018b, 社会対話「環境カフェ」の実践—「環境カフェ本郷」の開催を例に一, 日本環境教育学会関東支部年報, 12, 17-20.

多田満, 2019, 社会対話「環境カフェ」の実践—「環境カフェ駒場」の開催を例に一, 日本環境教育学会関東支部年報, 13, 39-44.

多田満, 田中迅, 2020, 社会対話の実践「環境カフェ」と SDGs のかかわり. 日本環境教育学会関東支部年報, 14, 41-46.

多田満, 田中迅, 2021, 社会対話の実践「環境カフェ」のオンライン化. 日本環境教育学会関東支部年報, 15, 9-14.

多田満, 戸祭森彦, 2018, 科学と文学による社会対話「環境カフェ」の実践—「『海辺』の生態学」をテーマに一, 環境教育, 28(1), 30-33.

東京大学・日本財団 FSI 海洋ゴミ対策プロジェクト, Microplastics Journey マイクロプラスチックの旅 - OMNI Microplastics project at DLX Design Lab, UTokyo-IIS, <https://youtu.be/5p9jBR3aqFE> (accessed 2022-1-29).